境内下段の玉垣（荒垣）は、文政七年（1824）に建立されており、親柱に高須賀村中、高沼村中の文字が刻まれている。

境内中段拝殿石段下の玉垣は大正八年八月溝手真七、河合光太郎の両氏が世話人となり、中村源次郎、中村秀次郎の両氏が奉納している。石柱に鑿で穴を空け鉄棒を通しており、苦労の跡が窺える。

境内中段鹿島神社の前に廻らされている玉垣は正面に「神庶遍溢」と刻されており、大正十五年四月に矢吹貫一郎氏が発起人となり氏子の寄進により設置されている。

境内上段の玉垣（瑞垣）は、拝殿前面に設置されており、設置年代は不明であるが、一番外側の玉垣（荒垣）と形状や材質がよく似ていることから、同年代に設置されたと思われる。

正面石段の石製欄干は大正十五年四月、矢吹貫一郎、小原勝三郎、中村仲七の三氏が発起人となって、南古開西組合の氏子が寄進している。

正面に「神威無窮」と刻されており、拝殿石段の欄干に合わせて、威風堂々とした同形態のものを築造している。

鶴崎神社側石段石製欄干は、明治二十八年四月、花町・渡邊茂平、市場・綱島増吉両氏の奉納で、正面に「敬神愛国」と刻されており、拝殿改築と共に築造されている。

八幡神社側石段石製欄干は、明治三十七年、岡傳吉、妻重の両氏が日露戦争の戦勝祈願成就を願い奉納した。正面に「戦勝紀念」と刻されている。

中段鹿島神社前の玉垣（大正 15 年建立）

中段の玉垣（大正８年建立）

大正十五年鹿島神社の前に設置された玉垣に刻された奉納者名

片田　齋藤　太免
片田　河合　鹿之助
片田　杉原　長九郎
片田　近藤　仙三郎
片田　渡邊　熊平
片田　木村　浅五郎
片田　木村　英二
片田　清水　熊吉
片田　古谷　恒治
片田　西野　岩太郎
片田　若林　津太
片田　渡邊　浅治郎
片田　高宮　卯三郎
片田　増田　為一
片田　礒山　左平
片田　峰山　和平治
片田　高木　八重松
片田　山崎　菊太
片田　亀山　仙次郎
片田　矢吹　米一
片田　坪井　岩一
片田　木村　真平治
片田　三澤　利喜松
船本　上原　卯平
船本　小川　鹿次郎
船本　河合　茂八
船本　高宮　秀太郎
船本　齋藤　源治
船本　渡邊　佐太郎
船本　渡邊　精一
船本　矢部　梅野
船本　井谷　喜代八
船本　渡邊　源二
船本　渡邊　長吉
船本　中戸　喜太郎
船本　石田　菊三
船本　河合　治三郎
船本　栗阪　泰三郎
船本　守屋　音一
船本　船越　利八
弁才天　合田　宗平
弁才天　船越　始太郎
弁才天　西巻　光太郎
弁才天　松尾　辨吉
弁才天　福山　辰五郎
弁才天　松尾　増治郎
小浜　赤木　壽賀一
小浜　太田　源吉
小浜　佐藤　清治
小浜　森　源吉
小浜　清田　登良
小浜　清田　保太郎

前潟　岡　忠八　十丁分
前潟　原　文吉　頓行
前潟　大橋　基助　長津
前潟　田邊　末佐　宮山
久々原　溝手　嘉十郎　下野
久々原　寺山　和三郎
久々原　溝手　長四郎
花町　佐藤　久三郎　箕島表屋
花町　寺山　治平　畑
花町　大河　政太郎　児島郡福田
市場　井上　若浩　三宅
市場　中野　鶴松　岡山市
三軒地　横山　龍吉　備後松永
三軒地　小村　良三郎
塩津　遠藤　良一　神戸市
三丁割　蜂谷　高一　金沢市
高須賀　小原　林三郎

岡本　伊太郎
溝手　鹿三
渡邊　佐太郎
黒瀬　金三郎
齋藤　勝太郎
溝手　幾三郎
原　宗一
勝太郎
児島郡福田　直吉
三宅　榮次郎
小野
赤木　正三郎
田辺　常太郎
生　沼

下段の荒垣（文政七年）

上段の瑞垣

大正十五年四月正面石段に設置された石製欄干に刻された奉納者名

妹尾　五三治　中村　重藏　中村　啓一郎
中村　純一郎　中村　正信　高橋　丞平
中村　吉治　竹内　綱一　高橋　若太郎
中村　紋次郎　三津　常太郎　高橋　竹次郎
中村　仲七　竹内　卯三郎　中村　喜一
竹内　梅吉　林　壽雄　高橋　彦吉
妹尾　春治　妹尾　十七吉　高橋　銀治郎
中村　岸野　中村　喜代子

昭和十三年四月金刀比羅神社に設置された玉垣に刻された奉納者名

中村　純一郎　栗坂　泰三郎　中村　吉治
安田　武一郎　塩田　芳平　渡邊　徳次郎
渡邊　正爾　中村　仲七一　永瀬　金蔵
亀山　仙次郎　藤原　甚吉　小野　房
佐藤　保太郎　横山　正一　中村　秀次郎
藤原　啓四郎　原　金一　寺山　庄次郎
横山　龍吉　佐藤　廣松　溝手　一雄
渡邊　宗次郎　綱島　讓太郎

百度石

百度参りをするための目安とする石のことで、参った回数を数えるための掛札が置かれる。

百度参りは平安時代から行われており、神仏に祈願するために百回参詣することで、同一神仏に百日続けて参詣する場合と、一日に百回参詣する場合とがある。特に病気平癒祈願などでよく行われる。

当社の百度石は拝殿石段左右登り口に二ヶ所設置されており、現在でも夜に百度参りを行う参拝者が見られる。

右側の百度石は、明治二十九年一月、金田・三宅重三郎氏が寄進している。

左側の百度石は、大正六年一月、市場・尾池良作氏が寄進している。

百度石（明治 29 年）

燈籠

神仏などに献灯するための器具であり、材質は石、金、木、陶製などがあり、形態も置燈籠、釣燈籠、懸燈籠などがある。

当社には、石製の置燈籠六対十二基と単体で三基がある。

制作年代のわかっているもので最古の灯籠は拝殿両脇に設置されている延享二年（1746）制作で、前潟村と前新田村が奉納したものである。寄進された燈籠は、照明の為だけでなく、神の加護を強く願うため、神前に灯明を点す事でもある。